

何とかしよう!!

長い間人手が入らず、竹や雑木が密集し、荒れ果てた山でした。

倒れた木を整理し、枯れた木から切っていきましたが、一番手を焼いたのはモウソウチク。タケノコから一年も経てば、大きな竹に成長してしまします。タケノコを見つけたら、蹴飛ばしてでも増やさないようにしてきました。

今では道が整備されて登り易くなり、頂上の木々の間からは伊勢湾や、晴れた日には伊吹山が見えるようになりました。街灯や遊具も使えるようになり、夜でも散歩に行けるほどです。

また、お正月には初日の出を迎えるために、100人も人が集まってくる、地域の大切な場所になってきました。



Before

平成 17 年頃
荒れた『しろやま』



After

平成 28 年 8 月
よみがえった活力ある森



竹炭づくり

最大の敵！モウソウチクを
味方につけて



竹を伐採して下準備。1mの長さ
に切って、節に穴をあけ、2
〜3ヶ月乾燥させる。



窯の中に竹を立てて、ぎっしり
詰め込む。



たき口と煙突以外を密閉して50時間くらい
火を入れる。



煙の色がねずみ色から空色になり透明になると、
たき口や煙突もふさいで密閉状態にして鎮火。



1週間ほどゆっくり冷ましたらでき上がり。
窯出しは、全身真っ黒！炭だらけになる。



でき具合をチェック。うまく
いったり、いかなかったり。毎回
同じようにはいかない。
むずかしいところがおもしろい。



たくさんできた竹炭。地域の人たち
にも使ってもらおう。



『しろやま』竹炭

竹炭アート。焼き上り
の様々な形がいくて
いる。

炭焼き人 しろやま倶楽部

切り出した多数の竹は処分しな
ければなりません。何かうまく利
用できないものかと考え、小林代
表が趣味としていた竹炭づくりに
みんなで取り組んでいます。

三重城山緑地で下準備をし、そ
の後、いなべ市の宇賀溪へと運び、
借りている窯で焼きます。

竹炭は、多孔質で水分や臭いの
原因となる物質の吸着力に長けて
おり、消臭や湿度調整、土壌改良
にも効果を発揮する優れたものです。

